



認定NPO法人

JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2018

年度事業報告書

2019

年度事業計画書



2018年度 事業報告書

CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ JHP の活動・歩み・理念	4-5
■ 学校建設（カンボジア）	6-7
■ 学校建設（ネパール）	8
■ 衛生教育（カンボジア）	9
■ 初等科芸術教育支援事業	10-11
■ 音楽・美術教育支援事業	12
■ CCH・アート・プロジェクト	13
■ 教育支援（幸せの子どもの家）	14
■ ボランティア派遣	15
■ 成人識字教育事業	16
■ 災害救援 復興支援	17
アフリカへ毛布をおくる運動	
■ 啓蒙活動	18-19
■ 組織運営	20-21



「このお花が好き！」

【表紙の子ども達に関しまして】

自分たちで折った紙コップに何を入れるか考えて、
子どもたちが絵を描きました。その紙コップを並べて鑑賞会。

「どのコップが好きかな？」

お友だちが選んだのは、ピンクの花壇に咲いた水色のお花のコップでした。



ごあいさつ

日ごろ全国各地から寄せられる皆さまの温かいご支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

2018 年度は、25 周年を記念した様々な活動を通じて会員の皆さまとお会いする機会があり、とても充実した 1 年となりました。CCH の子どもたちや卒業生とも久々に交流し、彼らの成長を見ることはとても感慨深いものでした。

私どもは、1993 年 9 月の設立以来、「できることからはじめよう」をモットーに、皆様のご支援によりカンボジアに 350 棟、ネパールでも 13 棟の校舎を建設寄贈して教育支援活動に取り組んで参りました。また、音楽や美術教育の発展に基本創りから大きな貢献をしています。

1 年半振りにカンボジアを訪問し、2018 年度から始まった新事業である成人識字教育事業の開講式に参加しました。これまで JHP では子どもの教育支援に力を入れてまいりましたが、内戦の影響で十分な教育を受けられなかった大人たちにも教育を受ける機会を設けました。読み書きや計算ができるようになると、より良い条件での就職や、

昇進、給料アップにつながります。

この度 JHP は、東京都から認定 NPO 法人の更新認可を受けました。今後も、皆さまからのご寄付は、所得税額からの控除が受けられます。

2019 年度も様々な支援活動を考えております。新しい若い世代とも話し合い、より良い活動を続けていきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

山内美江子



25周年記念祝賀会

25 周年を記念して 11 月 10 日に「クルーズ・クルーズ横浜」を舞台に、祝賀会を開催しました。会場には、全国各地から 200 人以上が集まり、司会は女優の名取裕子さん、JHP スペシャルサポーターとして、ヴァイオリニストの天満敦子さん、女優の藤原紀香さんが出演くださいました。

式典の後半には、この日のために来日した児童養護施設 CCH（幸せの子どもの家）の子ども 5 人とスタッフ 2 人が紹介され、スタッフのスレイナックさんからの御礼スピーチ、鮮やかな衣装に包まれた子どもたちによる伝統舞踊「ウィッシングダンス」が披露されました。更に、JHP プノンペン事務所から来日したラス職員が、現地スタッフを代表して活動報告と御礼のスピーチを行いました。今回、カンボジアのチア・ソパラ大臣より、「JHP が支援した学校で勉強した

多くの子どもたちは、現在、ビジネスマン、教師、エンジニア等になっています。カンボジアの経済開発に貢献する人材です」というお祝いメッセージを受けました。

本祝賀会開催にあたり、数多くの皆さまからご寄付をいただき、海外メンバーの来日が実現しました。

また、デルタ航空のマイル寄付プログラムのご支援をいただきました。

ご支援をくださいました皆さまに心より御礼を申し上げます。



JHP の活動・歩み

1990	イラクに入国できず、ヨルダンにて活動。	
1991	JHPの前身であるJIRACとして湾岸戦争後に取り残されたクルド難民の救援を学生達とイランで実施した。 小山内美江子と二谷英明らがカンボジア難民救援のため、タイ国境キャンプを視察し準備に入る。	
1992	タイ国境からのカンボジア帰還難民救援活動の中から、子どもたちのための学校建設の必要性を把握。	
1993	9月15日にJIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立。 カンボジア活動隊派遣開始（以降年2～3回を継続）。	(写真A)
1994	JEN設立に代表小山内が参画。駐在員1名をユーゴスラビアへ派遣。	
1995	阪神淡路大震災発生。当日から救援活動開始。 カンボジアにプノンペン事務所設置。旧ユーゴスラビア隊を定期的に派遣。	(写真B)
1996	音楽教育プロジェクト開始。カンボジアに音楽教師1名を派遣。 アフリカに毛布を送る運動の構成団体として学生の現地派遣開始。	
1997	4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。 地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)の構成団体となる。	
1998	カンボジア教育省とNGO活動の合意書を結ぶ。	(写真C)
1999	美術教育プロジェクト開始。日本人教師1名派遣。初の絵画展を開催。	
2000	10月に東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受け、11月に登記完了。 プノンペン市認定の音楽教師7名を誕生させる。	
2001	JENの構成団体としてインド地震救援隊4名派遣、テントなどを支援。 カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOに認められる。	
2002	ユニセフと合同でアフガニスタン支援実施。駐在員1名派遣。 JHP初の孤児院完成。CCH(幸せの子どもの家)支援開始。	(写真D)
2003	JHP初のラオス校舎完成、ボスニア活動隊4名派遣、100棟目の校舎完成。	
2004	1月1日に日本で19番目に国税局より認定NPO法人の認知を受けた。 新潟水害、中越地震の支援活動実施。	
2005	カンボジアにて第1回音楽コンテスト実施(以降年1回実施)。 JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金スタート。	
2006	小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ開催。 代表小山内がカンボジア王国よりモニサラボン大十字勲章受章。	
2007	設立15周年記念祝賀会を開催。マーチングバンド、CCHの子どもが来日出演。	
2008	1人1万円の呼びかけで631人が賛同し、200棟記念校舎が完成。 代表小山内が第20回毎日国際交流賞を受賞。	
2009	国際ボランティア・カレッジが第3回浄土宗共生(ともいき)・地域文化大賞を受賞。 新たな支援対象国の候補としてネパール調査を実施。	
2010	アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008を実施。	
2011	東日本大震災発生(3月11日)。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。 平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。	(写真E)
2012	JHP初となるネパールでの学校建設を開始する。 JHP創設者の一人で元副代表の二谷英明氏が1月7日に逝去する。 公益財団法人かめのり財団より、「第5回かめのり賞」の表彰を受ける。	
2013	JHP行動基準が制定される。(詳細は裏表紙を参照) JHP初となるネパールでの校舎が2棟完成し、贈呈式を行う。 300棟記念校舎が完成。	(写真F)
2014	2月24日に東京都より認定NPO法人の認定を受けた。 設立20周年を祝う、記念の集いを開催。 教育支援事業の充実を目指した「ドレミとアート基金」設立。目標300万円を達成。	
2015	外務省日本NGO連携無償資金協力の助成事業に採択される。	
2016	熊本地震発生。益城町への継続支援を実施。(4月～) JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」が開始される。(8月)	
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。2018年9月から教室開講。	
2018	JHP25周年記念祝賀会開催。	(写真G)

JHP の理念

JHPは、戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子ども達に、人種、国籍、宗教、その他の信条の違いにかかわらず広く教育等の援助を行ない、また紛争や自然災害による被災地・被災者への救援活動と、これらの活動を通じて次代を担う若者達への地球市民教育を実践することを目的とする認定NPO団体です。

■設立経緯

代表の小山内美江子は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに出向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の见えない日本人」と批難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身団体JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった小山内美江子と故二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。



（写真 G） JHP25 周年記念祝賀会



（写真 A）



（写真 B）



（写真 C）



（写真 D）



（写真 E）



（写真 F）

学校建設 (カンボジア)

■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者 (生徒数)	受益者 (教員数)	支援内容						
					校舎		トイレ		机、 椅子	井戸 水タンク	靴箱
					棟	室	棟	室			
346	ドムレイポオン中学校	ブレイベン州	561	29	1	3	1	3	75	1	9
347	タックラー小学校	バタンバン州	327	6	1	3			75	1	9
348	トルボット小学校	バタンバン州	109	4	1	3	1	3	143	1	9
349	ブレイバオ小学校	バタンバン州	135	3	1	3	1	3	75	1	9
付帯設備	マナウ小学校	バタンバン州	436	13			(1)	(4)		1	
付帯設備	コーキ中学校	カンダール州	812	54			1	2			
付帯設備	コークスラウ小学校	コンボンチャム州	344	8			1	3		1	
合計(2019年度実績)			2724	117	4	12	5	14	368	6	36
350	ドントリー小学校	バタンバン州	420	14	1	4	1	3	100	1	12

*348の机・椅子は、日本からのリサイクル品を140セット寄贈。教師用3セットのみ現地購入しました。(P. 7参照)
 *トイレ実績の()内の数字は、既存トイレの補修棟数と室数を示します。2019年度の実績には加算していません。
 *350は2018年度内に未完成のため、実績は2019年度に加算されます。



写真A
教室不足で屋外で学習するブレイバオ小学校生徒



写真B
ブレイバオ小学校生と老朽校舎

■支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき調査を実施し、その中から、

- ①教室の不足 (写真A)
- ②校舎の老朽化、又は倒壊の危険 (写真B、C)
- ③小学校全学年の収容不能 (写真D)
- ④校舎以外の設備が必要な学校 (写真E)

など、各学校が抱える状況をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。

今年度はカンボジア 4 州に、小・中学校 4 棟 12 室、トイレ 5 棟 14 室、給水施設 6 基を建設し、総受益者は生徒 2,724 名、教員 117 名の成果を得ました。

これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア 20 州で 350 棟 (着工済校舎を含む)、ラオス 1 棟とネパール 13 棟を加えた総実績は 364 棟となりました。

また、年間を通して学校調査を行い、今後の事業継続のための情報収集とその可能性を探りました。



写真C
完成したブレイバオ小学校校舎、トイレ、給水タンク



写真D
支援前は4年生までしか通えなかったタックラー小学校



写真E
コーキ中学校に寄贈した1棟2室のトイレ

■カンボジアにおける校舎建設の実績

2017～2018 年度の教育省統計では、公立の小学校は 7189 校、中学校は 1237 校、高校は 511 校で合計は 8937 校となり、前年度より 62 校増えています。その中で、JHP は支援校 282 校 (約 3.1%) の支援に携わっています。

■カンボジアと日本を繋ぐ各種コーディネート

学校建設事業では、校舎・付帯施設の贈呈式 (9 回)、ボランティア活動 (遊具建設、校舎塗装作業等 8 回)、交流会 (17 回) など、年間 26 組 211 人を受け入れました。

プロジェクトの背景

国際機関や NGO 等の援助により、カンボジアの状況は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。小学校の進学率は上昇しているが、不完全校（6年生まで受け入れができない小学校）や教室不足の学校、老朽化が進み危険な校舎を利用している学校は未だに多い。中学生の増加により、教室や教員不足を招いている学校も多い。生徒が過密な環境で学んでいたりと、正規の時間数が学べなかったりなどの弊害も出ている。又、公立幼稚園の数と児童数の増加、都市部での私立学校の増加などの傾向が出ている。

■学習環境を維持、向上させるための継続支援



（写真A）
ボンオンサオン小学校の文具寄贈



（写真B）
リサイクルPC 寄贈

カンボジアの各学校は、国からの予算が不足しているため、学用品、図書、備品などの購入代、校舎修理代などを十分に賄えません。2018年度は、学校贈呈式実施校6校及び既建設校約20校に文房具・教材（写真A）、図書、学校用備品（時計、世界地図、ゴミ箱）、校舎補修・塗装用具、リサイクルPC（写真B）、遊具・運動設備などを寄贈しました。これらは子どもた

ちの学習意欲や自主的な管理の意識を高め、各学校の運営面の向上にも役立っています。

■「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を輸送



2018年8月、江東区の小・中学校から届いた机・椅子のうち、140セットはバタンバン州トノルボット小学校、残り85セットはバタンバン州内の3つの小学校、州教育局内ミーティングホールに寄贈しました。また、江東区の小中学生が書いた寄せ書きも寄贈しました。海上輸送のコンテナには、江東区をはじめ全国各地から当会に寄せられた楽器等も積み込み、各種支援に備えることができました。

■各種インタビュー

JHPは、子どもたちの学びに欠かせない校舎、衛生施設、学用品、図書、各種備品などをニーズに合わせて支援しています。調査から支援に至るまで、スタッフ自ら現場に入り、支援前の要望や支援後の感想などの声を聞いています。



学校名：ボンオンサオン小学校
名前：カーン・ムン校長
教師経験：34年
校長経験：6年

本日は文具を寄贈いただきありがとうございます。支援いただいた校舎をきれいに長く使用するため、1クラスを6つのグループに分け、月曜から土曜まで毎日掃除しています。トイレは4年生が担当しています。また、周辺にはトイレがないので、コミュニティの人々の利用も許可しています。この校舎ができてから、生徒の数は約100名増えました。今年、教育省から支給される学校予算を使用して本棚も購入しました。この地域のモデルとなる学校にしたいです。そうなれば支援者の方も誇りに思うと思います。来年はさらに教材を増やし、教育の質を改善したいです。

来年ぜひまたいらして下さい。今より環境がよくなっていると感じるでしょう。重ねまして、校舎や文具をご寄贈いただきまして誠にありがとうございました。



学校名：トゥールアンビル中・高等学校 名前：ニャム・チェン・メイ
年齢：20歳 学年：高校3年

好きな教科は歴史で、将来は警察官になりたいです。近隣の人々を助ける仕事をしたいと考えたからです。一週間に数回、時間があるときに図書館を利用しています。社会や歴史に関する本を読むのが好きです。図書を毎年寄贈していただき、ありがとうございます。

学校建設（ネパール）

■ネパール校舎累計で 13 棟 54 教室建設 新たに 2 校舎建設へ

2011 年に始まったネパールに於ける学校校舎建設事業は 2018 年度末までに 13 棟、54 教室が完成し贈呈することができました。支援者の皆様のご協力に心から感謝いたします。

このうち 2018 年には 5 月にガウリシャンカー高校（幼稚園生から高校生までが同じキャンパスで学んでいます）に 4 教室、12 月にガネッシュ高校に 5 教室が完成し贈呈式を行いました。いずれの学校もジャパ県内ではありますがガウリシャンカー学校はジャパ県の西はずれの田園地帯の村、ガネッシュ学校は北東の山岳地帯に入ったところの茶畑の中にある村の学校です。ガウリシャンカー高校の贈呈式にはドナーの H 様ご夫妻が出席されました。贈呈式の前日に 2016 年 3 月に行われた贈呈式に体調を壊され参加できなかったサラスワティ・ブタバリ学校を訪問されたところ、学校ではドナーの H 様の訪問を歓迎し、贈呈式を改めて開催してくれました。これに感激された H 様はその場で寄贈された校舎の上に 2 階 4 教室の増築を約束されました。

また 12 月に行われたガネッシュ学校の贈呈式にはドナーのスマイルブリーズ藤原紀香世界こども基金から藤原紀香さんら 4 人、紀香基金へのドナーである K さんの関係者 3 人合計 7 人が参加され盛大な贈呈式となりました。藤原さんが有名な俳優であることがあらかじめ伝わっていたので、これまでにない千人以上の村人が藤原さんを目見ようと贈呈式に集まり、これまでにない盛大な贈呈式となりました。藤原さんは絶えず笑顔を絶やさず、踊りの輪に加わり大活躍されました。2019 年度には 5 月に現在建設中のサラスワティ・ブタバリ学校の 2 階 4 教室が完成し、秋にはさらに 1 棟ないし 2 棟の建設が予定されています。

すし詰めの教室で勉強に励んでいるネパールの子供たちの教育環境を少しでも改善するため、皆様のご支援を切にお願い申し上げます。



ガウリシャンカー校舎（2018/5）



ガウリシャンカー贈呈式（2018/5）



ガネッシュ校舎



学校に到着したドナーの方々



ガネッシュ新校舎の前で生徒たちと



式典の合間に踊る紀香さん

プロジェクトの背景

2009 年度より事業方針として掲げていたカンボジア以外の国における学校建設支援の検討を開始し、調査を進めていたところ、ネパールの公立学校の教育環境がカンボジア同等に劣悪であることが分かり支援を行うことになった。2010 年に現地調査を行い、現地の NGO ガナシヤムメモリアルファンドとの連携を図りながら準備を進め、支援対象地域と候補校を具体的に絞り込み、当会がカンボジアで培った建設ノウハウを設計図や資材に反映させながら 2011 年 12 月、2 階建て 8 教室の校舎建設を始め、2013 年 1 月に初めての贈呈式を行った。

衛生教育（カンボジア）

■カンボジアの教育を支える衛生施設

JHP では校舎建設だけではなく、必要な場合、衛生施設のみ、トイレ、給水タンク、井戸のみの支援も行っています。近年子どもの数が顕著に増加しているカンボジアでは、トイレ不足に悩む学校が後を絶ちません。また、学校に清潔なトイレがないため、学校へ通うことを躊躇う生徒も中には存在し、学校に安全で清潔なトイレがあることは、学校へ通い続けるモチベーションにもなります。

教育省や国際 NPO の努力により衛生に関する意識は改善されつつありますが、2018 年度のデータでは、学校にトイレがある学校は 69%、水が確保されている学校は 48% となり、衛生環境の整備が必要な学校は未だ多く存在します。JHP の 2018 年度の実績ではトイレ 5 棟 14 室と給水タンク 6 基を支援。ソフトの面では、寄贈した施設を正しく、長く使用できるよう、JHP カンボジア人スタッフがパネル、衛生教本を使用し、教員、生徒、コミュニティの人々に衛生に関して説明を行っています。



カンダール州
コーキ中学校へ 1 棟 2 室のトイレを支援



パネルを使用し衛生指導する JHP スタッフと、メモを取る生徒

クロイ・サブリー先生

（コークラウ小学校校長、教員経験：9 年、校長経験：8 年）

学校の清掃は、6 つのグループに分け、分担表に従い、授業が始まる前に月曜日から土曜日まで毎日掃除しています。衛生指導の後、トイレの正しい使用の仕方を理解し、きれいに使用できるようになりました。校舎、校庭も常にきれいに保つことができています。また、以前は清掃の方法は教員の指導にただ従うだけでしたが、現在は生徒達の意思で学校をきれいに保とうとするようになりました。嬉しいことに、両親からも衛生環境の整った学校なので、子どもを安心して学校に通わせることができるとの声を聞きます。



JHP スタッフの
インタビューに答える校長先生と教員

初等科芸術教育支援事業

2018年度 JICA草の根パートナー型「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」

■初等科芸術教科の生徒用教科書および教師用指導書づくりを本格的に開始

カンボジアの教育省の職員で構成されているワーキンググループとともに、初等科芸術教科の教科書と指導書づくりを進めています。

芸術教科の教科書と指導書は、大きく「美術と手工芸」と「音楽と踊り」の2つの科目に分かれており、それぞれ作成のプロセスも異なっています。



教科書、指導書を作成するメンバー



指導案を基にした授業実践の様子

●美術と手工芸

美術科目の教科書・指導書づくりでは、まず実際に小学校で各題材の指導案を基に授業実践を行い、その後実践した題材の教科書・指導書のページを作るという作業を交互に行っていきます。1年生の教科書・指導書づくりから順に始めて、現在は3年生の教科書・指導書に取り組んでいます。また、昨年の教科書づくりに関するワークショップに続き、今年も日本の美術教育専門家を派遣し、美術授業の指導案作成への理解を深めるワークショップを実施しました。

【授業実践および教科書・指導書づくりの実施、分科会の実施】

カンボジアにおいて、ワーキンググループのメンバーとともに、授業実践および教科書・指導書づくりを行いました。また、日本・カンボジアの両国において、作成された教科書・指導書ページの内容を精査するための分科会を実施しました。

○カンボジアでの授業実践、教科書・指導書づくり： 2018年7月～2019年2月迄38日間実施

○日本における分科会： 2019年1月19日

○カンボジアにおける分科会： 2018年12月20・21日

【専門家派遣（1回）】

日本の専門家を派遣して、ワーキンググループメンバーへのインプットを行いました。

○「体験を通して指導案への理解を深めるためのワークショップ」

2018年9月25日～28日

岡田京子先生（文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官）

ワークショップの目標：

- ・美術科目の指導案に必要とされる項目や内容、考え方を正しく理解する。
- ・美術科目の指導案を作成する体験を通して、内容・プロセスを理解する。



岡田専門家によるWS（2018年9月）

プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられており、指導に十分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。授業を行っている数少ない学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通じた自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

●音楽と踊り

音楽科目の教科書・指導書づくりは、カンボジア人音楽専門家らとともに、曲題材ごとに子どもたちの発達段階を考慮した活動を設定するところから始まりました。日本の音楽教育専門家のアドバイスを受けながら、1年生から6年生までの題材ごとの学習活動の内容を決定した後、活動内容に即した教科書・指導書のページづくりを1年生から順に進めています。また、ワーキンググループメンバーの音楽授業の体験を深めることを目的として、日本の専門家によるワークショップを実施しました。

【教科書・指導書づくりの実施】

カンボジアにおいて、カンボジア人音楽専門家らとともに、教科書・指導書づくりのための分科会を行いました。

○カンボジアでの音楽分科会： 2018年9月～2019年2月迄17日間実施

【専門家派遣（1回）】

日本の専門家を派遣して、ワーキンググループメンバーへのインプットを行いました。

○「音楽授業デザインへ理解を深めるためのワークショップ」

2019年1月10日～13日

津田正之先生（国立音楽大学教授）

ワークショップの目標

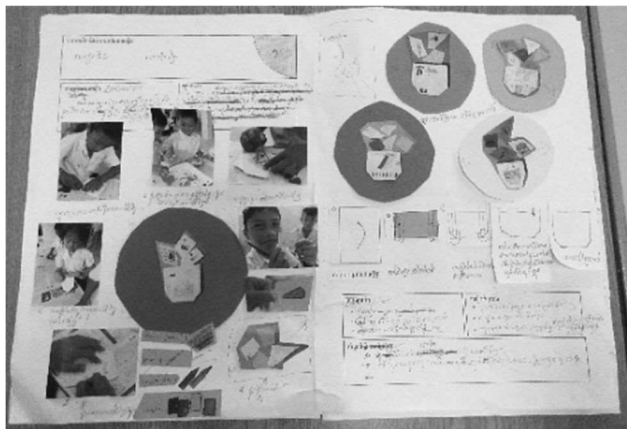
- ・音楽科目の模擬授業の体験を通して、楽曲を中心とした授業の指導計画や音楽の授業づくりについて理解と経験を深める。
- ・模擬授業、共通歌の歌唱などの音楽活動の体験から、音楽活動の意義や楽しさを感じ取り、理解を深める。



津田専門家によるWS（2019年1月）

●事業報告会

事業開始より2年半が経ち、5カ年事業の折り返し地点を迎えたことを踏まえ、ワーキンググループメンバーによる教育省の関係局および総局への中間報告会が開催されました。これまでの活動のまとめ、目下進めている教科書・指導書づくりの進捗、課題や今後のスケジュールなどが報告され、各局上長も目に見える成果に驚くとともに、メンバーの精力的な取り組みに感謝の言葉も聞かれました。



不思議なポケット（1年生教科書ドラフト）



Tak Ting Knoeng Knoeng(1年生教科書ドラフト)

音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

これまでにカンポット・スバイリエン州で実施した美術教育支援パイロット事業、そして、プレイベン州のコンポントラバイク郡で実施した音楽教育パイロット支援事業。これらの対象地において、郡の教育局や対象校のそれぞれが自分たちの手で美術・音楽活動を継続していくために必要とされる支援を継続しています。また、指導者がいながら楽器の不足で、音楽の授業の実施が難しい学校や教育機関などへの楽器寄贈も幅広く行っています。

●音楽（プレイベン州コンポントラバイク郡）

【音楽講習会および郡や対象校による音楽イベントの開催支援】

2018年から郡の教育局は、音楽のスキルアップを望む教員を対象とした音楽講習会を実施することを決めました。

JHPは、カンボジアで音楽の指導に取り組む3名の青年海外協力隊員（JICA）に講師としての協力を依頼し、郡主導で月に1回の講習会が継続して開催されました。また昨年度と同様に、郡の教育局の担当職員と話し合い、郡および対象校が主催する音楽イベントへの間接支援を継続しました。



音楽のイベントでの演奏

●美術（カンポット州、スバイリエン州）

【美術の授業の継続、自校開催の絵画展、国際コンテストへの参加などを目的とした画材の寄贈】

昨年に引き続き、(株)山田養蜂場が主催する「第6回ミツバチの一枚画コンクール」への出品支援を行いました。

Kamptot, Svay Reng 両州の32校から出品された生徒の作品の数は全230点で、海外作品部門において7作品が入賞、また Sose Serphynase さん、You Pharydough さん、Kean Cheanea さんの作品が優秀賞を受賞しました。また、各校における美術の授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を側面支援するために画材の寄贈を行いました。



スバイリエン州での画材寄贈

●楽器寄贈

【地域や学校への楽器寄贈】

リクエストの届いた10校へ楽器の寄贈を行いました。寄贈に際しては、器楽の指導を行える指導者がいること、具体的な指導計画と時間が確保されていること、楽器の使用や管理の持続性が考慮されていることなどを確認しています。また、カンボジア国内の様々な学校や教育局などで音楽教育に取り組む青年海外協力隊員を通しての楽器寄贈も継続的行なっています。



一枚画コンクールの賞状を受け取る受賞生徒と校長

CCH・アート・プロジェクト

■自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ・ワールドスカラシップ基金の支援により 2015 年より実施しています。子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

○アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。

○第2回アートフェスティバル

2018 年 7 月には、2 回目となるアートフェスティバルを開催しました。今年は『HAPPY DAY -the day that we wait-』のテーマで、日頃の活動の成果を披露する作品展示に加え、校庭に大きなステージを組み、器楽やダンス・オリジナル劇を上演しました。当日は天候にも恵まれ、保護者や地域の子どもたちなど多くの方に来場いただき、日ごろの成果に目を見張っていました。

○フィールドトリップ

2018 年 9 月には、子どもたちが描いた絵をプロジェクションマッピングで映し出すというイベントに参加しました。同じ会場で行われていた美術展で数々の作品にも出会えました。2019 年 3 月には、プノンペン市内にある国立博物館へ見学に行きました。博物館スタッフによるギャラリートツアーにも参加し、自分の何倍もある仏像の前に子どもたちは興奮を隠せない様子でした。

フィールドトリップ



アートイベントに参加



国立博物館で学ぶ子どもたち

アートクラブ



ココナッツの殻に
ペイント



リサイクル材料で
ヒロインになりきり



オリジナル劇を披露する子どもたち

アートフェスティバル 元気いっぱい踊る子どもたち



今年も大きなステージを用意しました

教育支援（幸せの子どもの家）



支援者の皆さまへのメッセージ

CCH所長（理事）メチ・ソカ

日頃よりご支援を頂いております日本の皆様および JHP サポーターの皆様にご感謝申し上げます。CCH の子どもたちと共に過ごした 17 年は私にとって、教育が人生においていかに重要であるか、またその人自身やそれを取り巻く社会をより良いものにしていくために重要であるかを身をもって知る日々でした。CCH が運営する小学校では通常の授業に加えソーシャルスキルを学ぶ時間を設けています。最近、裁縫の授業を受ける中学生は制服を仕立てることができるようになってきました。また、日曜日に美容教室を解放し、地域の方や子どもたちに対し CCH の生徒がネイルやシャンプーを提供しています。さらに子どもたちは、毎週金曜日に開催される CCH と JHP による共同事業であるアートクラブで創造性や自発性を養っています。

最近では CCH のスタッフや子どもたちが貧しい地域に出向き、土曜日の午前中と日曜日終日、アクティビティを行っています。現在 24 名の地域の子どもたちが参加しています。現地には教室の他に図書室があり、子どもたちが自由に本を読んでいます。低学年の子どもたちは、CCH の子どもたちが読み聞かせを行っています。また、入浴や手洗いなど衛生教育に関する指導も行っています。少しでも子どもたちの将来が明るくなるような活動を続けていけたらと思っています。

最後に JHP の小山内代表をはじめ、日本の支援者の皆様に重ねて御礼申し上げます。皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。



コミュニティプロジェクト



コンピュータートレーニング



裁縫

項目	総数	男子	女子
小学生	41	22	19
中学生・高校生	18	7	11
ドンボスコ	10	4	6
自立している高校生・大学生	12	5	7
社会人（CCH卒業生）	181	107	74
カンボジアの大学在籍者	3	1	2
海外の大学在籍者	1	1	0
貧しいコミュニティでサポートしている子ども	24	11	3

2019年3月31日現在



CCHが運営する小学校に通うこどもたち

プロジェクトの背景

ボルボト時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002年に当会が施設を建設し、創設に携わった。贈呈式は2002年11月30日。主にゴミ山で生活していた孤児等を調査面接し、就学意欲のある16人の支援から開始した。CCHはCenter for Children's Happinessの略称。

日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。カンボジアのNGOとして正式に登録されている団体で、これまでに在籍した子供の数は351人。2019年3月末現在、59人が在籍している。また、CCH内で運営されている小学校には、CCH内部の子ども41人の他に、外部の子ども61人を受け入れている。

ボランティア派遣

■8月カンボジア体験ボランティア 8月22日～9月1日

活動内容：○ブランコ建設 ○校舎補修 ○現地学生との交流 ○児童養護施設（CCH）訪問等

活動場所：プノンペン市、カンダール州、コンポンチャム州

参加者：高校生2名、大学生14名、社会人3名 計19名



ワークショップ
プノンペン職員と意見交換



ブランコ建設
3日間炎天下での作業



校舎補修
窓枠を外してペンキ塗り



CCHでの交流
カレーパーティーと交流

■社会人参加の活動 都度対応

学校を寄贈した支援者（企業・団体・個人）の皆様は、定期的に学校を訪問されます。

JHPでは訪問計画に合わせて学校側と調整しております。（支援方法は、文具寄贈や遊具建設等々）



プロジェクトの背景

JHP 創立以前の 1991 年に、小山内代表が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて学生と活動を共にし、成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまでに海外は、カンボジアを含め複数の国々へ派遣。国内は、阪神淡路大震災や熊本地震など救援活動にボランティアを派遣している。

成人識字教育事業

JHP は 2018 年より識字教育事業をスタートしました。選抜された 4 名の教員は、9 月に教員養成コースを無事終了し、10 月 16 日に識字教室が開講しました。今年度は、コンボンチャム州バティエ郡にある非識字率の高い 4 村で 100 名の生徒を対象に識字クラスを実施しています。この事業では、生徒が読み・書き・計算の知識を得ることによって、将来の展望として、授業で得た知識に基づき、より生産性のある職を自ら創造し、彼らの子どもを学校に通わせ、勉学意欲を促進することを期待しています。

10 月 16 日の開講式は 4 村から代表の受講者約 50 名と、識字教員、バティエ郡の教育課のスタッフ、コミュニケーション長、各村の村長を招き行われました。関係当局の方々からは、授業は夜間に行われるので、参加者の方々の治安、開講場所などを、できるだけサポートしたいと非常に前向きな言葉がありました。生徒、教員の皆さんをサポートしながら、識字クラスを成功に導いていきます。



識字クラス開講式



識字クラスの様子

識字クラス生徒の声

私は小学校 2 年生まで通ったことがありますが、家が貧しく、働かなければならなかったため、途中で通うことをあきらめました。読み、書きの知識はほとんど忘れていたので、この識字クラスはとても役に立っています。このクラス修了後も勉強を続け、知識を得たいと思っています。



今はまだ具体的に決めていませんが、家族のためにもっと勉強し、何か新しいビジネスを始めたいと考えています。

カット・ライン 55 歳

識字クラス教員の声

第一回目のテストではほとんどの生徒は自分の名前さえ書くことができませんでした。今では自分の名前はもちろん、簡単な読書ができるようになりました。縫製工場で勤務している人々にとっては、読書ができること、昇進や給料アップに繋がります。この識字クラスを修了すると、今より自信を持って生活できるようになるでしょう。今従事している仕事の質を上げたり、そこから新しいビジネスを始め、生徒の生活の質が今より向上することを期待しています。



ソン・チャン

トマール・ケイブ村 識字教員

パナソニック（株）の企業市民活動、「みんなで“AKARI”アクション」の一環として識字クラスで活用するソーラーランタン、ソーラーストレージが届きました。そして、成人識字教育事業としては初めて企業のカンボジア訪問の受け入れを行い、識字クラスの見学・生徒へのインタビューを実施しました。



「事業の背景」に関しましては、
P28 2-4 成人のための識字事業 事業の背景 をご参照ください。

災害救援 復興支援

■忘れてならない東日本大震災

2011年3月11日発生した東日本大震災は太平洋沿岸に押し寄せた大津波により甚大な被害をもたらしました。

JHP は宮城県南三陸町へボランティア派遣隊を送り救援物資を届けるとともに南三陸町の要請に応じてボランティアセンターを立ち上げ運営を開始しました。現在は沿岸部に堤防工事が進み居住地は10mを超える嵩上げ造成工事が行われています。仮設住宅から転居されてくる住民の皆さんから「以前は春には花々がいっぱい咲いた」それを聞いたJHP三島の山岡理事が「桜を1,000本植えよう」と、三島の有志に呼びかけしたのが始まりでJHPも協賛し2018年度には10回目の復興記念植樹イベントが開催され、植樹はなんと1,500本を超えました。

震災を風化させないためにも今後も続けて行こうと呼びかけています。



■平成最大の豪雨災害西日本を襲う

平成30年7月豪雨は、西日本に甚大な爪痕を残しました。

JHP では直ちに支援カンパの呼びかけを開始し、皆様から129,000円のご寄付をいただきました。現地では猛暑の中、警察・消防隊員の懸命な捜索活動が続けられました。

そのような状況下、7月25日よりJHP三島の山岡理事と有志の方、JHP事務所の福田職員が現地へボランティアとして入り、高圧洗浄器20台を届けました。ほかにもJHP会員有志9名により、現地支援活動に参加しました。小山内代表から寄贈された軽トラックが機動力を発揮しました。

被災された皆様の一日も早い復興をお祈りいたします。



アフリカへ毛布をおくる運動

■アフリカへ毛布をおくる運動

アフリカへ毛布をおくる運動は2018年で35年目を迎えました。

この間にアフリカへ送られた毛布枚数は4,173,755枚に達しました。アフリカ諸国はあいかわず毛布を必要としています。

高齢者、孤児、身体障害者、エイズ患者、自立困難者、自然災害被災者、難民など毛布を必要とする人々がいます。いただいた毛布はマラウイ、モザンビークに29,104枚を送ることができました。

2018年は「毛布とぬくもりをアフリカの家族に」を合言葉にアフリカへ毛布をおくる運動キャンペーンを4月1日～5月31日2か月間実施しました。



啓蒙活動

7/14 天満敦子チャリティーコンサート Vol.14

浜離宮朝日ホール大ホール



JHP 創立 25 周年に当たる今年、その最初のイベントとして、7 月 14 日（土）に「第 14 回天満敦子チャリティーコンサート」が、浜離宮朝日ホールにて開催されました。

当日は総数 500 名を超す聴衆の中、アンコールを含めて 15 曲、休憩をはさんで 2 時間の熱演でした。前半の曲目は、バッハ、シューマン、シューベルトなどのヨーロッパ古典名曲と、天満さんの代名詞とも言える「望郷のバラード」。そして、後半は「夏の思い出」、「見上げてごらん夜の星を」などの日本の名曲で、来場の皆さん、心から堪能されました。特に、現代曲として、天満さんのために提供された落梅集から「古謡」が演奏されましたが、会場には作曲者の竹内邦光さんも見えられ、惜しめない拍手を送られていました。

ご報告 入場料・募金	2,572,110 円
支出合計	1,150,256 円
チャリティー額	1,421,854 円

次回は 2019 年 8 月 10 日（土）に、同じく浜離宮朝日ホールでの開催を予定しています。

諸活動を認知いただく取り組み

活動名	主な内容・実績
JHP ニュース発行	○年 2 回発行。部数 3,500 部。 ○カラー印刷、透明封筒の活用を継続。 ▶データ上の PDF 送信数は 52 件（'19/3 上旬現在）
ホームページ運営	○JHP の諸活動や体制に変更・新設や、イベント等のお知らせ情報が生じる都度、作業を実施。 ▶サイト訪問件数 23,914 件/年
メールマガジン	○年 19 回発行。閲覧者 1,353 人（'19/3 上旬現在）
SNS の活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的话题の紹介、イベント当日の話題提供として Facebook と Twitter を活用した。 ▶FaceBook フォロアー：860 人（'19/3 上旬現在） ▶フォロアー：389 人（'19/3 上旬現在）
報告会・説明会	○10 月 20 日「カンボジア体験ボランティア」それぞれの活動報告会を実施した。
講演・講義等	○役職員が年 7 回実施した。
来訪者受け入れ	○プノンペン事務所が 296 人を対応した。
カレンダー販売	○452 部を販売した。



イベント出展

外部イベントには年間 10 回参加しました。

25 年の活動や理念を軸に JHP の諸活動の紹介と各種事業の資料配布を行い、ご協力者を募ることに努めました。

各イベントでは来場者との交流を深めること、出展団体との情報交換をおこないました。会場ではカンボジア・ネパールの教育支援にカンボジア・ネパールの民芸品販売や募金活動を行いました。



各イベント時には、JHP会員の皆様にもご協力いただき、また、多くの支援者の方にもご来場いただき、盛大に、そして楽しみながら実施することができました。

オリエンテーション

JHP 活動説明会

JHPの活動、カンボジアやネパールの様子などについて紹介し、国際協力や国際支援をともに考える機会としてオリエンテーションを実施しました。月2回(事前予約制)を基本に、その他、学校や団体などの要望を受け、合計9回の開催で33名の参加がありました。

(2019年3月上旬現在)

2018年度は、昨年度と同様に、中学・高等学校の社会科見学や修学旅行の訪問が多くありました。ツアーやボランティアへ参加したことをきっかけに、「途上国の教育事情について深く知りたい」という思いから、

直接訪問された方が例年よりも多くいました。途上国の現状に対して、「何か自分にできることはないか」と深く考える方が毎年少しずつ増えてきていると思われます。



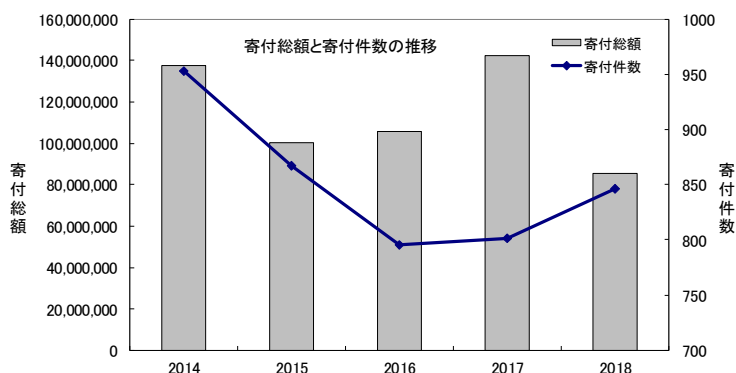
組織運営

会員数 569人(2019年3月現在)

	正会員	賛助会員
一般	366	146
特別	8	11
学生	37	1

前年比19人減 新規会員29人

寄付金 846 件 85,431,999 円



皆様からの各種ご寄付・寄贈

●お宝エイド

「もの」で寄付する JHP・学校をつくる会 お宝エイドプログラム。

皆様のご家庭や会社で眠っている品々がカンボジア・ネパールの教育支援になる新しい寄付の仕組みです。お宝エイドのご協力により10%をめぐりに上乗された金額がJHP・学校をつくる会への寄付となります。

今年度実績：619,370 円

●BOOK SMILE

皆様の読み終わった本やCD・DVDなどをブックオフオンラインが買取り、その買取金額+10%がJHPへのご寄付となります。

今年度実績：38件 84箱 55,026円

(BOOK・OFF 上乗せ分10% 5,051円含む)

●スカイウィッシュチャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムよりJHPへマイルをご寄付いただけます。個人の方はもちろん修学旅行など学校単位でのご寄付の輪も広がっています。

今年度実績	
受領マイル	約450万マイル
利用マイル	約180万マイル
年度末残数	約2,500万マイル

●書き損じはがき

寄付数：24,065枚

●未使用切手

135枚 8,936円

●テレホンカード

21枚 (21,000円分の通信費に相当)

●寄付サイト

6つのサイトより121万円を受けました。

●クレジットカード

利用数：93件 (956,880円)

●募金型自販機

1台設置

各種会議の報告

会議内容	2018年度の主な内容・実績
会員総会	2018年6月16日（土）開催。 出席者112名（委任状含む）。 2017年度事業及び決算報告、2018年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第135回～138回まで年4回実施。
運営協議会	理事と事務局の情報共有、理事会審議事項の協議・検討の場として年9回実施。
定例ミーティング	東京事務所（逐次） プノンペン事務所（週1回）実施した。

助成金・実施実績

今年度は、下記の助成金を申請し、事業を行いました。

名称	対象事業
連合「愛のカンパ」	成人識字教育事業
公益財団法人JKA (競輪補助事業)	ボランティア派遣



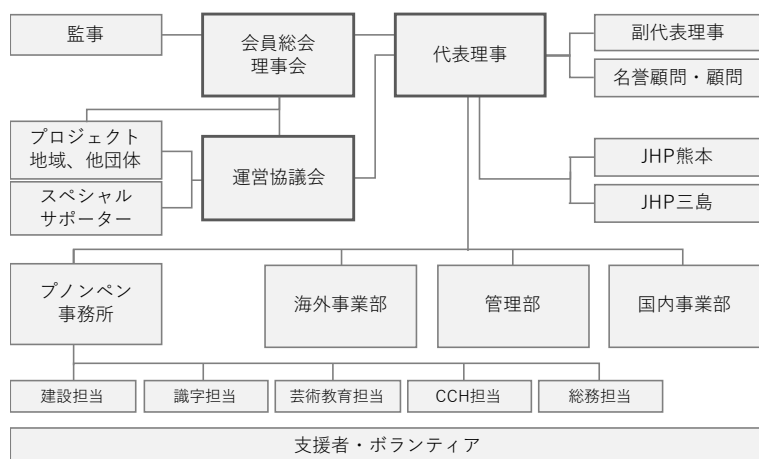
■ボランティア受け入れ

東京事務所では年間を通してボランティアの皆さんを受け入れています。今年度は年間を通して32回・346人の皆様にご協力いただきました。定期的に参加いただいた方54名がボランティア保険に加入しました。

レギュラーボランティアは12回192人のご協力をいただきました。楽器清掃活動では、日曜日を中心に年間12回実施。鍵盤ハーモニカ清掃548台・梱包86箱・96人の協力いただきカンボジアへの輸送に備えることができました。楽器清掃活動は港区のボランティア情報誌9月号に掲載されました。

運営体制（2019.4 現在）

©JHP 組織図



◎役員

代表理事	小山内美江子
副代表理事	今川純子
理事	佐伯蘭子、山岡修一
	佐谷隆一、脇田知子
	吉岡健治、青野達司
	岩本宗孝、伊藤多栄子
	中込祥高
監事	櫛田正昭
顧問	今川幸雄、立石義明

◎東京事務所

区分	2017年度	2018年3月	2018年4月	2019年4月
常勤役員	3名	3名	4名	5名
職員	3名	2名	2名	2名
職員（契約）	2名	2名	2名	1名
パートタイマー	1名	1名	1名	3名
ボランティア（定期）	8名	8名	8名	1名

◎プノンペン事務所

区分	2017年度	2018年3月	2018年4月	2019年4月
職員（日本人）	5名	4名	3名	3名
職員（ローカル）	8名	7名	7名	8名
専門家（ローカル）	1名	1名	1名	1名

※2017年度の数に従事者合計



JHP行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。

- *開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
- *より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
- *諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。

- *主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
- *国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることから始めよう」を実践します。

- *人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。

- *プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。

- *現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業を立案し活動します。
- *現場の人々と直接交り、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。

- *支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。

- *役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

JHP・学校をつくる会 代表理事

山内美江子

アカウンタビリティ・セルフチェック(ASC)への取り組み



2016年3月25日、当会は国際協力NGOセンター(JANIC)が普及の中心となるASC2012にチャレンジし、必須項目は33のうち32、強化項目は8のうち6項目をクリアし、2010年2月に実施したときよりも6項目多くクリアすることができました。左のマークはJANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)についてJHPが適切に自己審査したことを示しています。今年度もASC2012の全項目クリアに向けて組織力の強化を進めます。

認定NPO法人



JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 読売理工学院ビル6F

TEL 03-6435-0812 FAX 03-6435-0813

E-Mail tokyo-office@jhp.or.jp ホームページ: www.jhp.or.jp

Twitter: @JHP_tokyo Facebook: JHP・学校をつくる会

本書の印刷は株式会社プロネクス様にご協力頂きました。